



# 栗原小だより

新座市栗原 1-5-1 ☎042-473-7070

HP <https://e-kurihara-c-niiza.edumap.jp/>



～学校教育目標～  
よく考え学ぶ子  
心のゆたかな子  
たくましい子

令和6年度1月号  
令和7年1月8日

## 見えない襷（たすき）をつないで

校長 古澤 健史

### 【年末夜回り今昔話】

昨年のはじめは、能登半島沖地震のニュースでスタートしました。まだ復興に向けて大変な日々が続いていることと思います。我々も被災地への支援を忘れずに、また災害への備えもしていきましょう。

この年末年始には、大きな災害等のニュースはありませんでしたが、各地で火事が多発しました。乾燥する日が続いています。

「戸締り用心！火の用心！」年末に町会の夜回りが実施され、栗原1丁目町会の夜回りに教頭と参加させていただきました。年末の夜回りは、私が子供の頃も地域子供の年中行事の一つでしたが、教頭に聞くと自分が子供の頃にはこのような行事は地域になく、初めて参加したとのことでした。我々の世代でもすでに姿を消しつつある行事だったようです。

私も小学生のときに、自作の拍子木を持ち、地域の仲間と声を張り上げ夜回りをしたことを思い出しました。最後にご褒美がもらえることも含めて昔と変わらぬこの光景ですが、私が子供の頃と比べると、無くなってしまった掛け声があります。

「マッチ1本、火事の元！」「サンマ焼いても家焼くな！」「地震、雷、火事、親父！」などです。キャンプの焚火などでも火をつける道具は、マッチではなくチャッカマンになりました。理科の授業でも、火を使う実験道具がアルコールランプからカセットコンロに変わり、マッチを使う機会がなくなりました。サンマもいつしか漁獲量が激減し、高級魚のようになってしまったこともあります。七輪やコンロの上に網を置き焼かれていた魚もグリルや電子レンジ、IHで焼かれるようになり、火事の原因のように言われなくなりました。怖いものの代名詞も、地震、雷、火事は健在ですが、親父はどうでしょう。昔の親父の怖さには、ゲンコツも含まれていたようなので、体罰が子供の成長にいい影響を与えないという

ことが世間に広く認識されてきたことでもあるのかもしれませんが。

町会の役員の方が、消防署の人からこのような活動は、防犯にとっても効果があると言われたとおっしゃっていました。「この地域には、みんなのことを気にかけている人がたくさんいるぞ」という姿勢が、地域の安全を支えているということだそうです。

大人になって思うのは、子供時代にこの経験ができたのは、地域の大人のおかげだったということです。きっと、夜回りに参加した栗っ子たちに、箱根駅伝の襷に負けない大切なことが伝えられていると思います。「みんなのことを気にかけている人がたくさんいる」ということが、どれだけありがたいことなのか。

### 【美し都～We love KOBE～】

皆様は年末年始をどのように過ごされたでしょうか。ここ数年、「年賀状じまい」という言葉も多く聞かれるようになってきました。私は、普段会うことができない方からの新年のあいさつやそこに綴られた近況を楽しく読みました。その中の1枚について書きます。

それは大学の時の先輩からのものです。この先輩は神戸出身でした。大学在学中に阪神淡路大震災がありました。今年であれから30年になります。震災でめっちゃくちゃになってしまった故郷への思い、復興に向けて頑張る人々の様子を熱く語る先輩の姿を題のキャッチフレーズとともに今でも思い出します。そして、神戸の話をしたあとに説教をして、最後にこの言葉で締められます。「お前ら、それでええんか！」と。

より良い栗原小学校のため、気持ちを新たに頑張っていきます。今年も子供たち一人一人の力をしっかりと伸ばしていけるよう、教職員一丸となって努めてまいります。令和7年も、どうぞよろしくお願ひいたします。